

エコけん ニュース

No. 90 2007. 1

連絡先 NPO法人エコけん事務局

FAX 092-944-3012 (火~土 9:00~17:00)

e-mail eco_ecoken@ybb.ne.jp

発行責任者 清水佳香

http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken/

12月活動報告



あけましておめでとうございます。皆様、よいお正月をお過ごしでしたか？
年末は好天に恵まれ暖かく、大掃除には本当に助かりました。でも少々気象の異常が気になりますね。

さて、師走12月は2006年最後の月。節目があるのはありがたいですね。おかげでいろいろな整理が進みました。エコけんの今後のことを考えたり、エコロの森ステーションの倉庫が片づいたり... また、エコロの森ステーションでは、ガーデンや2階のリニューアルが形になり始めました。3月の春休み教室前には何とか終了したいと思っています。どうぞお楽しみに。

今年もエコけんらしく元気に張り切っていきたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

日	自主事業	受託事業 (エコステ活動)
1		火災訓練
2	北中オープンフェスタ参観	
5	後期MY企画始まりました。 ボラさんも元気に活動開始！	エコロ講座 交流会 ボラ育成研修
6		リメイク教室(小布ぞうり)
8		登録ボラ自主活動(新聞紙de植木鉢作り)
9		エコロ環境教室(高校)
10	コーディネーター養成講座参加	
11	定例会	運営会議 教室会議 ボラ育成会議
12		ピンゴ研究会
13		エコエコクッキング(託児あり) 展示会議
14		ボラ会(かえっこショップ) MY企画(企画書作り)
15	ニュースレター20号配信	
16		廃材工作(CD盤オーナメント) かえっこショップ
19		ボラ会(エコロ講座) Eプロジェクト会議
20		エコエコクッキング MY企画(企画書作り)
26	エコけんニュース89号発行	ほっとちゃっと43号発行
28		仕事納め

ニュース14



レジ袋あれこれ



新春早々、京都と東京のスーパーマーケットが、レジ袋の有料化に踏み切ったことが全国的に話題になりました。

原油を原料としたポリエチレン製レジ袋は、1970年代に登場し、軽くて丈夫なことから、買い物かごなどに取って代わったそうです。

登場から約40年。ちょうど、私たちの暮らしが大きく変化したといわれる時代と重なっています。レジ袋は家庭から出るプラスチック製容器包装ごみの一割を占めるとか。確かに、エコロの森のごみ処理施設にある巨大ユーフォーキャッチャー(?)で攪拌される貯留ごみを見ていると、ふわふわと舞う姿がよく目につきます。

前述の二つのお店が、先駆けとして有料化に踏み切った勇気も目を引きましたが、現時点のそのお店のMYバック持参率と有料化後の目標値に驚いてしまいました。なんと現在30%の持参率を、有料化により50%に引き上げたいとのこと。6年前、古賀市内の全国展開スーパーマーケットで「他店と比べて、この地域の持参率に驚いています。」と誉めていただいた数字は7.5%でした。一人あたり年間300枚程度も使うという毎日のお買い物生活に定着したレジ袋も、不要と考えMYバックを持参する人が着実に増えているんですね。

利便性と環境を大事に思う気持ちを秤にかける人が多数派になってきているのかも、とニュースを聞きながらうれしく思いました。今後、先駆けスーパーマーケットの取り組みが成功するよう、私もMYバックを使いつつ期待したいと思います。



レジ袋は、原油をこれだけ使う (日本ポリオレフィン工業組合データより)



大サイズレジ袋

約おちょこ1杯



18.3ml

原料としての使用分
+
製造工程での消費分

全国の年間使用枚数



55万8000
キロリットルに相当

300億枚

66万2000
キロリットルに相当

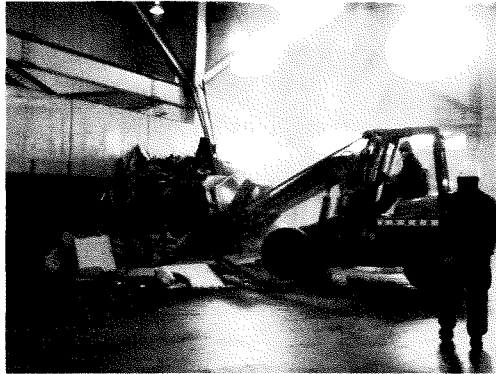
日本の1日当たり原油の輸入量

参考: 北海道新聞 <http://www5.hokkaido-np.co.jp/motto/20050702/>

リサイクルプラザ見学記

エコロの森のリサイクルプラザは、リサイクル工場へ搬出するための前処理をしています。おもな前処理は、「選別」「圧縮と梱包」です。リサイクルプラザ内は機械がむき出しで、危険な箇所も多く、通常ガラス窓越しに見学することになります。今回、初めて現場まで近づいて、働く人々や機械の動いている様子を見学させていただきました。

入ると、まず「金属がぶつかり合う音」と「走り回る車両」に圧倒されます。「粗大ごみ」の処理現場です。パワーショベルでざっくりとすくわれたごみは、受入ホッパに入り、破碎機を通り「可燃」と「不燃」に分けられます。「不燃」はその後「アルミ」「鉄」に分けられ売却されます。



▲現場は迫力満点！どきどきしました

粗大ごみとはいえ、まだまだ使えそうな家具などが、パワーショベルでばりばり壊されていくようすは、バチがあたりそうで物にすまないなあ、という気になりました。自分もまず買うときに必要かどうか、考えようと反省しました。

▶次々に流れてくる牛乳パック



「トレー」や「その廃プラ」などの選別の多くは手作業でした。不適物をより分けたりするのは、やはり人間の目が確かなようです。

中身が入っていたきたなかつたり、ごみがいっしょにくっついていたり。においもあります。分別収集に出す人がきちんと分別していたらこの作業は必要なくなるんでしょうね。

自分の「出し方」にまたもや反省反省。きまりを守っているかな。気をつけよう。

リサイクルプラザの現場は、音とにおいが印象的でした。通常見学できるコースでは味わえないものです。ぞくぞくと搬入される「いらなくなったもの」。それを分ける人たち。選別されリサイクル工場へ搬出される資源、焼却処理されるごみ。

人間・ごみ・資源。「私にできることはなんだろう。今やるべきことはなんだろう。」もう一度、自分の生活を振り返るきっかけになりました。

エコステだより

ボラさん限定企画「かえっこブティック」報告

自分ではもう着ないけど、捨てるのはなんだかもったいなくて... そんな服をエコロの森でかえっこしませんか？という企画が「かえっこブティック」です。1月18日(木)10:00～たくさんのボランティアさんが参加してくれました。

参加者は、持ってきた服を机上いっぱいディスプレイします。その山を前にアイズブレイクを行ってお互いの気持ちがほぐれたら、さあ「かえっこブティック」の始まりです。

まず、ほしい服をおのおの確保。残った服は布の行方・素材ごとに分けました。たくさんあった服は、あっという間に整理され、無事終了しました。

参加者の感想

よかったこと、ジャンケンで勝って、コサージュがもらえた！
こだわりなくもらえてよかった。
こだわりなく持ってこれて良かった。

生地の先行きのことを考えて種別していくことにビックリ。でもそれが本当で、自分でも家の中を片付けするのに参考にさせていただきます。

「こんなによいものなのに... もったいない」と思うものがたくさんありました。また私が不要に思っている物をもって下さってとてもうれしかった。不要なものが必要なものの交換って初めての経験で楽しくうれしいものでした。



まわりつどいづき
エコロの森 再生・展示棟
ecolo no mori station

◆◆◆ 古賀清掃工場 再生・展示棟 ◆◆◆

☎ 811-3121 古賀市筵内1970-1 ☎ 092-942-1530 内線 (701)

☎ FAX 092-942-1532 ✉ メール ecosta@ecolo-no-mori.com

～事務局より～

❖ 先日、あるニュース会員さんから、「送ってもらったエコけんニュースは全部とっているよ。」といわれ、なんとも幸せな気持ちになりました。エコけんニュースも、はや90号。気持ちも新たにがんばります。ニュース会員は、いつでも募集中です。

